

図書館総合展2024

わが国の学術コミュニケーションを支える新たな共同体の誕生：UniBio Press

からScholAgoraへ

主催：UniBio Press

2024年11月6日



発表者によるテキストに限る

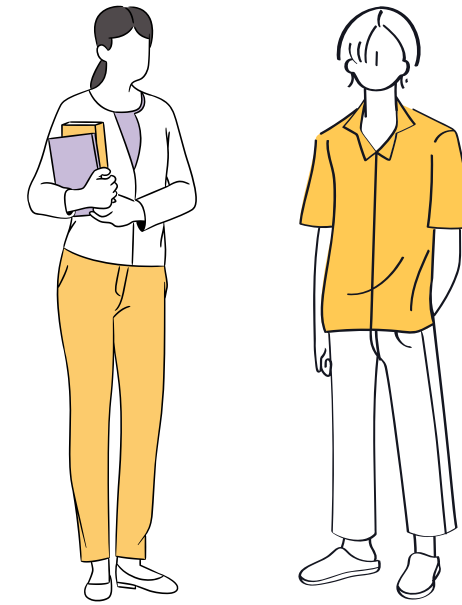
これからの学術情報流通に対して URA、大学からすべきこと

京都大学学術研究展開センター(KURA)

天野絵里子

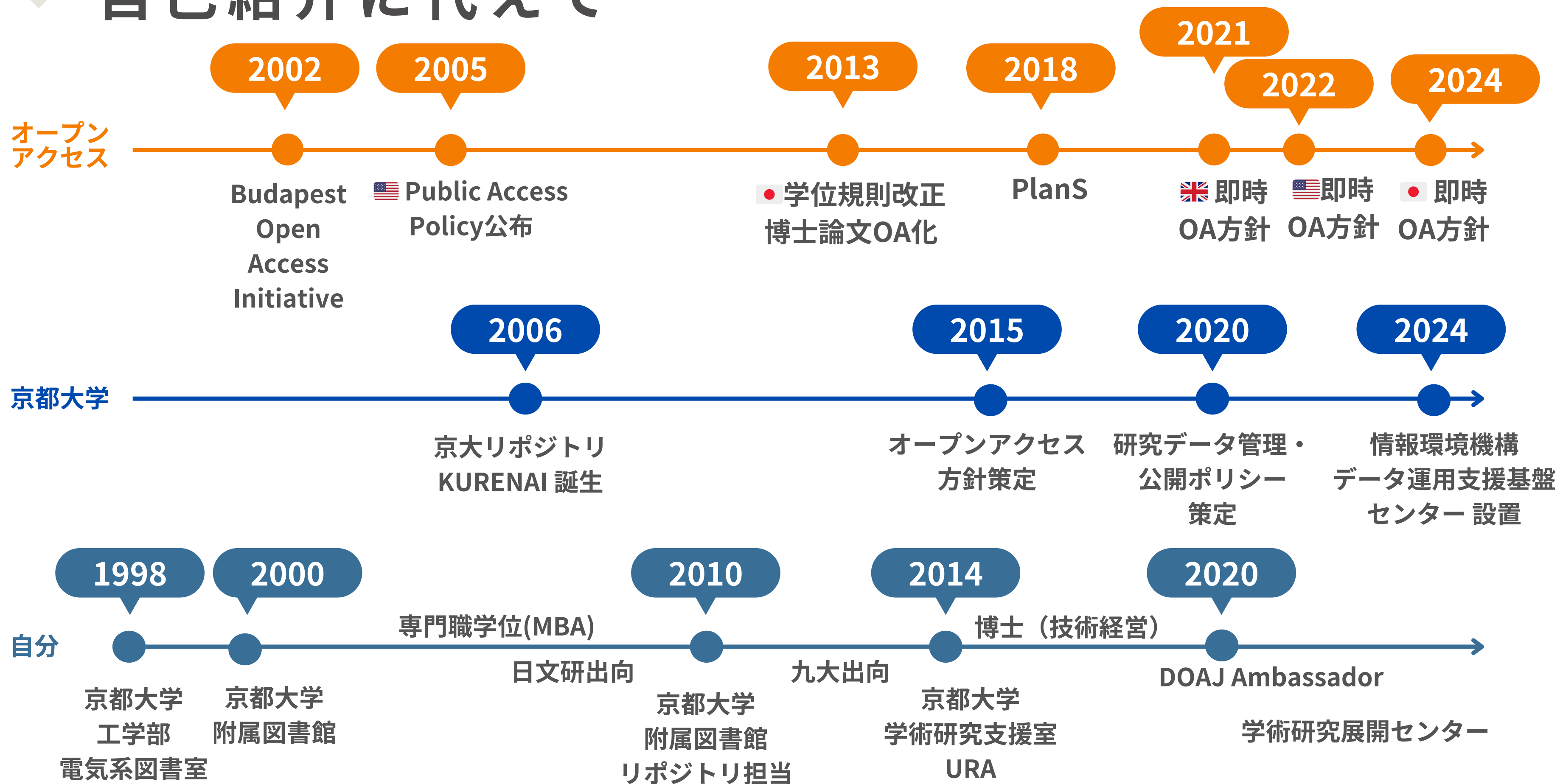
amano@kura.kyoto-u.ac.jp

▼ URAとは？



URA
リサーチ・アドミニストレーター

▼ 自己紹介に代えて…



▼ 2024年・・・

- 文部科学省 オープンアクセス加速化事業
- 内閣府 2025年度公募事業より即時オープンアクセス義務化の方針

URAの間でオープンアクセスが話題に

10月に行われたRA協議会年次大会でも関連のセッション多数

▼ RA協議会でURA向けに話したこと

DON'Ts

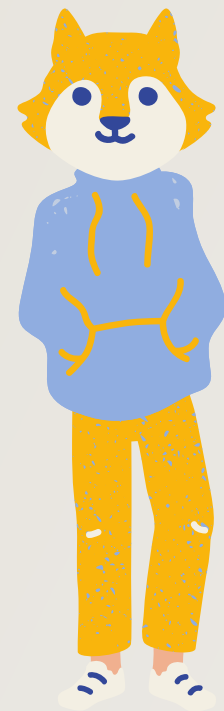
- URAだけでやろうとする
- 懐疑的な研究者の考えを変えようとする
- **一人の研究者の言葉に寄り添いすぎる**
- **一つの方法だけでどうにかなると思う**
- 出版社に気をつかう

DOs

- さまざまなオープンアクセスの方法を知る（せめてグリーンとゴールド）
- 便利なツールを知る
- 自分の大学・機関（がOAについて取り組んでいることを）を知る
- ライセンスについて知る
- **ダイヤモンドオープンアクセス**

RESEARCHERS

APCにお金がかかっても職を得るためには高IFな雑誌に投稿しないと



Early career

論文や本は全部OAになってくれるとうれしい



Reader

うちの学会誌をOA化したいけど即時には抵抗あり

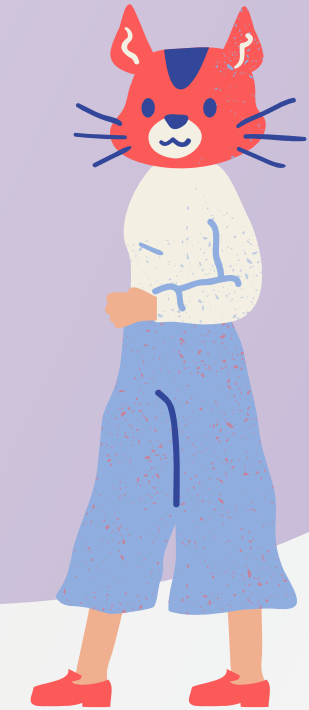


Editor / Publisher



Director

DORAもわかるけど大学ランキングはやっぱ気になる



Senior

OA化はお金がかかるので助成が欲しい!



Author

若手の評価はやっぱ論文のIFや引用数で

- APC支援 / 転換契約
- 論文作成支援 (英文校閲、AIツール…)
- 機関リポジトリ (Green OA推進)
- インセンティブ (OAを評価) …

▼ 研究者といっしょにどこへ向かっていくか？

- 質の高い研究を世に出す
- 研究成果の学術的・社会的インパクトを高める
- 自分の評判を高める
- 研究成果への平等なアクセスを実現する

とりあえず

▼ URA、そして大学は何をすべきか

研究者の出版活動を最適化する

- “戦略”的な出版のコンサルティング
 - ニーズとコストに合った信頼とインパクトを提供してくれる出版先選び
 - 透明性、再現性・・・研究データ管理
- 多様なオープンアクセス出版の方法の提供
 - 出版社とのコラボ事例：Japan Institutional Gateway (F1000Research)
 - 大学による出版の支援
 - 機関リポジトリ（グリーンオープンアクセス）
 - ジャーナル、図書（ダイヤモンドオープンアクセス）

